

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和6年12月26日

施設名	高知城歴史博物館	所管課	文化生活部歴史文化財課
-----	----------	-----	-------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)土佐山内記念財団	指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
施設所在地	高知市追手筋二丁目7番5号		
事業内容	旧土佐藩主山内家に伝来した山内家資料を核として、近世から近代までに至る高知の歴史文化に関する資料等を保存し、調査研究し、展示し、及び教育普及に活用することにより、県民文化の振興に寄与するとともに、県内の文化施設及び地域と連携し、歴史及び文化による交流を支援することにより、地域振興及び観光振興に寄与する。		
施設内容	<建物> 延床面積6220.56㎡ SRC造地上3階建 <土地> 3,983.4㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、資料閲覧室、ホール、和室、実習室、喫茶室、収蔵庫、燻蒸室、研究室など <開館時間> 午前9時～午後6時(日曜日は午前8時～午後6時) <休館日> 12月26日～12月31日 <主な料金> 常設展 500円 企画展 700円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 ホール 27,580円 実習室 17,570円 和室 20,720円		
職員体制	常勤職員:16人 契約職員:11人 嘱託職員:3人 合計:30人		

※職員数は令和3年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		令和4年度(決算)	令和5年度(決算)	令和6年度(予算)
収入	県支出金	290,506	272,293	292,043
	事業収入	23,709	26,927	36,135
	その他	0	1,848	0
	収入計(a)	314,215	301,068	328,178
支出	事業費	314,215	299,263	328,178
	(うち人件費)	(168,299)	(168,970)	(174,092)
	その他		1,805	
	支出計(b)	314,215	301,068	328,178
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

		令和4年度(実績)		令和5年度(実績)		前年度比
① 年間利用者数 合計 (単位:人)	常設展	7,854人	常設展	9,280人	+ 1,426人	
	企画展	44,984人	企画展	48,086人	+ 3,102人	
	合計	52,838人	合計	57,366人	+ 4,528人	
	<利用実績> ・コロナウイルス感染症の影響は収まってきたが、観覧者数は目標を下回った(目標人数:85,000人、達成率:約67.4%)。					

② 利用者意見等の反映	○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)
	<ul style="list-style-type: none"> ・時期:年間(令和5年度) ・方法:館内の数か所にアンケートボックスを設置 ・回答数:1,225件 ・調査結果公表:公表せず
	○ 利用者意見等を踏まえた対策
	アンケート等によせられた利用者の意見を検討し、下記の改善を実施。
	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶でキャッシュレス決済できるようにしてほしい →令和6年1月よりキャッシュレス決済対応可能とした。 ・1階から展示室へ向かう際や音声ガイドの言語切替に戸惑った →受付職員へ丁寧な説明を行うよう周知した。
	○ その他
③ その他特記事項	

4 年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・建物・設備の管理については、事前に修理を行い、観覧者の安全性や快適性を保つ等、適切な管理運営が遂行されたと認められる。 ・消防計画に沿った館内組織体制を職員に周知するとともに、関連のマニュアル等を常時、職員の見える位置に掲示している。 ・収蔵庫及び展示環境が安定的に公開承認施設の基準値内に保たれている。
②利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者アンケートの実施や、定例会等の自己点検により、利用者サービスの維持向上、改善に努めている。 ・継続的な国宝・重要文化財の借用展示実績および展示室や収蔵庫の環境基準をクリアしたことで、公開承認施設の承認がなされ、利用者にとってより、貴重な資料に触れる機会が増すこととなった。
③利用実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大のため一定の制約があったため、入館者数は57,366人となり、目標の85,000人を達成することができなかった。
④収支の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響が収束に向かう中、来館者数が伸び悩んでいるため、収入不足を補うために、業者発注から自作にするなど、工夫を凝らした取組の努力が認められる。
総合評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開承認施設として、今後の利用者サービスの向上(国宝・重要文化財の展示における事前申請の省略等)が望まれることは評価できる。 ・新型コロナウイルス感染症対策のなか、閲覧室の利用の予約制を継続したが、利用者数は275件、またリファレンス対応194件と県民の要望に応えている。 ・館内において、児童・生徒の来館時のサービス向上における協議を行い、取組年間85校の見学を受け入れるなど、教育普及事業に対する取り組みが評価できる。 ・学芸員養成講座や市町村立施設の資料整理への支援・協力など裾野を広げる活動や博物館業務のノウハウを共有する取り組みを継続している。 ・職員が事業運営や職員活動に対する様々な意見を出し合い、サービス向上のための改善に取り組んでおり、優れた管理運営、事業の遂行がされたと認められる。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの